

◇深 沢 義 一 君

○議長（伊藤福章君） 17番深沢義一君の一般質問を許可いたします。深沢義一君登壇願います。
(17番 深沢義一君 登壇)

○17番（深沢義一君） おはようございます。

通告に従いまして、三つの項目について一括質疑にて質問をいたします。

まず初めに、災害発生時の水利確保についてであります。

町長の施政方針演説にもありましたように、町では、平成21年度防災行政無線施設27基の子局設置あるいは防災資機材の積載車配備、そしてまた、防火水槽の設置など、安心・安全の町を目指した事業計画を着々と推進しようとしておるところであり、また、災害発生時には、何といても地域住民の協力、結束が重要なことから、行政区を単位として組織する自主防災組織を立ち上げる計画とのことで、生命、財産を守る環境と体制が一段と強固になるものと期待しておるところであります。

さて、そうした中、先月発生いたしました町内火災においては、広域消防、町消防団、地域住民の共同活躍により、初期消火はもちろんのこと、水利の確保も迅速に行われ、作業棟1棟を全焼したものの、付近住宅はもちろんのこと、隣接した家屋への延焼を食いとめたところであります。まさに一致団結して被害を最小限に食いとめた事例と言えらると思えます。私も地元消防団員としてその場におりましたが、水利確保がスムーズでよかったというのが実感でありましたし、皆がそう思われたようであります。

そして、後日、付近住民の方々から、「ことしは雪が少なかったからよかったけれども、ふつうの年だったら大変だったな」あるいは「水利のわかる人がすぐに対応したからよかったけれども、いなかったらどうなっていたらろうか」といった声を聞きましたし、また、「このことはどこにでも起こり得ることであり、万一に備えた対応として、住民の認識あるいは連絡システムといったことも大事ではないか」といった声もありました。

そして、それがきょうの質問に至ったところでありますが、答えも施政方針演説で半分いただいたようなところでありますけれども、当地においての水利確保に向けた取り組み、特に冬場に対する取り組み体制について、町長の考えをお伺いいたします。

次に、農業分野での就業と雇用情報の提供についてであります。

3月という声を聞き、ことしは雪解けも早く、いつにも増して頑張ろうよという気持ちになるわけですが、連日の経済不安、雇用情勢不安の報道には目を背けたくなるような状況であ

ります。こうした負の連鎖、デフレスパイラルという状況がことしの農業情勢にも及んできはしまいかと考えますと、ぞっとするような思いもするわけではありますが、当地においては、それぞれの協力のもとこの難局を乗り切らなければならないものと思うところでもあります。

さて、そうした負の連鎖により解雇されたり、ワークシェアリングの導入や休業状態といったことから、働き盛りでありながら、収入が全くなくなってしまう。あるいは大幅に減ってしまったという声も身近で聞くようになりました。加えて、1月の県求人倍率では、0.35という極めて厳しい数値が発表され、仕事を求める方々にとってはまさに大変な状況であります。

そうした中、国・県では、働き口の一つとして、農業分野にも目を向け、雇用対策を講じているところではありますが、町としてもこうした状況の中、就業希望者と雇用希望者への情報提供を行ない、それぞれのバックアップに努めていくことも必要なことではないかと思うところでもあります。ハローワークといった公的なところへ求人を出すまでもない、一時的に人手を必要とする町内の農家あるいは組織と、減った所得を少しでも補いたいとする町内の働き盛りの方々への情報提供がそれぞれの一助になるものと思います。特に兼業農家の方々の今後の農業経営を考える上で貴重な体験につながるものではとも思いますし、それが幾らかでも所得の足しになるとともに、地域の担い手、後継者へと発展する可能性もあるのではと考えるところでもあります。シルバー人材センターの業務と重なり合う面もあろうかと思いますが、今だからこそ必要な情報提供ではないかと思いますが、町長のお考えをお伺いいたします。

次に、町のマスコットキャラクターについてであります。

町長は、今後のまちづくりの大きなポイントに交流の促進を掲げており、交流促進プロジェクトとしてさまざまな事業を展開していくとのことで、非常に私も期待しておりますし、自分自身も積極的に参加しながら、その盛り上がりにも貢献していきたいものと考えておるところであります。

そこで、私からの提案であります、町のマスコットキャラクターを選定してはどうかということでもあります。県においては、スギッチというマスコットキャラクターが定着し、さまざまな場面で活躍しておることはご承知のとおりであります。当町においてもマスコットキャラクターの選定、活用はさまざまなイベント、交流の場において一層の盛り上がりや活性化につながることを思いますし、また、物販交流においても美郷ブランドの顔として期待できるものと思います。

現在、町では、旧六郷町内において、コボちゃんという有名な植田まさし氏の著作による「ユウちゃん」をよく目にいたしますが、心なむ思いをしておりますし、キャラクターには、そんないや

しの効果も期待できるものと思っております。ことし、町の合併5周年を迎えるに当たり、明るい話題として町のマスコットキャラクター選定を考えてはと思いますが、町長の考えをお伺いいたします。

以上3点について、答弁よろしくお願ひいたします。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長登壇願ひます。

（町長 松田知己君 登壇）

○町長（松田知己君） 深沢議員のご質問にお答えします。

初めに、災害発生時の水利確保についてですが、消防水利の確保については、消防法第20条及び同法第21条で規定されておまして、町では、現在、防火水槽259基、消火栓622基を設置し管理しております。しかし、火災の規模や場所によっては水量不足になることもあり得ますので、同法第30条においては、火災の現場に対する給水を維持するために緊急の必要があるときは、消防団の長は、水利を使用し、または用水路の水門、樋門もしくは水道の制水弁の開閉を行うことができることとされておまして、実際に河川や農業用排水路など自然水利も火災の際には利用しているところ です。

こうした消防水利については、平常時において通常の消防活動として、消防分団ごとに把握に努めているものと認識しておりますが、団員の世代交代や圃場整備に伴う水利の変更などもあることから、夏季及び冬季において、消防水利を確保できる自然水利の場所を現場踏査の上、改めて団員各位が把握するように消防団長に対し指示してまいりたいと存じます。

また、消防施設整備に関しても、これまで消防水利の基準に従いまして防火水槽や消火栓の設置を計画的に進めてまいりましたが、今後もその整備に努めてまいります。

なお、議員もご存じのとおり、平成21年度においては、新たに消防水利の少ない地区に防火水槽を新設したいほか、水道事業に合わせて消火栓も12基設置したい考えです。さらに、来年度は各行政区を単位にして自主防災組織を設立したい考えで、防災訓練を通じて地域の防災施設の確認や防災知識の伝達を推進するとともに、消防分団の指導のもとで夏季並びに冬季の消防水利についても地域の方々が把握できるように努めてまいりたいと存じます。

いずれにいたしましても、災害の被害を最小限に抑えることができるよう、必要な情報を皆さんで共有していくように努めるとともに、防災意識の高揚を図ってまいりたいと存じます。

次に、農業分野で就業と雇用情報の提供についてですが、現在のところ、ハローワークで農業分野の求人情報も提供されておまして、県内では、能代市、横手市、湯沢市のハローワークで

畜産業や稲作作業、野菜の栽培・加工業に対する求人情報が提供されております。また、新潟県内では、花きや野菜類の栽培・管理・加工についても求人情報が提供されているようです。

また、議員もご指摘ありましたが、シルバー人材センターについても一面でそうした機能がありますので、まずは、現在利用できるこうした機能を活用していただくよう、広報やホームページを通じてPRしてまいりたいと存じます。

また、議員ご提案の件については、職業安定法に抵触しないような取り組みでなければなりません。ハローワークに確認したところ、現在の状況で町ができることは、求人側の雇用情報を第三者の立場で広報等を通じて情報提供することのみで、問い合わせは受けられないとのことです。したがって、仲介等についてはできないこととなります。しかし、職業安定法には一定の手続を経ると無料職業紹介事業の実施が可能となる規定があります。現在、県内では、一自治体が無料職業紹介事業を実施しておりますので、現在の紹介状況など詳細を伺ってみたいと存じます。その上で、美郷町としてその取り組みの是非を検討、判断してまいりたいと存じます。

なお、雇用対策の窓口は商工観光交流課ですが、現在も各般の相談に随時応じておりますので、当面は窓口機能としてご利用いただきたいと存じます。

最後に、町のマスコットキャラクターについてですが、美郷町では平成17年に町を象徴するもの、あるいは親しまれているものなどの観点から、町のシンボルとして、町の木、花、鳥、魚を制定しましたが、そのほかにキャラクターとして、公聴関係では、広く町民の意見を聞きたいということで、大きな耳を持ったウサギの「みさとミミーちゃん」を各庁舎玄関に設置しております。ご意見箱と子供110番の家の看板に使用しているほか、農政課では、うりこめ美郷応援事業で、米粒の形をした耳を持ったウサギ「みさとマイちゃん」、それから、建設課の上下水道では、清浄な水をイメージするハリザッコのハリーちゃんをキャラクターとして現在使用しているところです。このように、既にそれぞれの部署でその事業イメージに一合ったキャラクターを使い、事業のイメージアップにつなげておりますし、また、県を含めてマスコットキャラクターの使い方は、通常は、各事業や大会単位で作成、活用しているとの状況のようです。議員がおっしゃいましたスギッチの例もありますが、通常はそうした活用の方法であるというふうなことであります。

町としては、そうしたことを踏まえまして、新たに町全体を象徴するマスコットキャラクターについて、現在のところは作成を考えておりませんので、議員からのご提言として受けとめさせていただきますと存じます。

しかし、議員ご指摘の趣旨は十分に理解いたしておりますので、より親しみやすく、町のよさ

や特徴が伝わりやすい術について、幅広く検討してまいりたいとは存じます。以上です。

○議長（伊藤福章君） 再質問ありますか。17番深沢義一君の再質問を許可します。

○17番（深沢義一君） 再質問に入る前に、二つだけ、お願いということになりますが、先ほどの情報提供につきましては、雇用側からの情報提供ということで、それぞれの規制の中で何とか情報の提供だけということで、さわりのない中ということになってしまうかと思えますけれども、私たちはお願いしたいものと思えます。それから、キャラクターについては、この分野はこういうキャラクター、あちらの分野はこういうキャラクターということではなくて、でき得れば統一した、これが美郷のキャラクターだなというふうな形になればなと私なりにそう思いますので、今回の質問に至ったというようなところであります。よろしくお願ひしたいと思います。

一つ、再質問になりますが、先ほどの水利確保についてなんですが、行政区を単位とした自主防災組織を立ち上げるとありましたけれども、広報にもありましたが、こうした機会に、協働のまちづくりという観点からも、地区ごとに町担当職員の配置も一緒に考えてはどうかなと、そういうふうを考えます。以前にも同じ質問をした経緯がありますが、町がよくなるための原点である地域の活性化にもつながるものと思えますが、前向きに検討いただければと思えますが、現時点での町長のお考え、よろしくお願ひいたします。

○議長（伊藤福章君） 答弁を求めます。町長自席でお願いします。

○町長（松田知己君） 深沢議員の再質問にお答えいたします。

ただいまのご質問は、それぞれの行政区を広くさまざまな業務で支援できる町職員を張りつけてはどうかというふうな趣旨と理解して答弁させていただきますが、状況を踏まえた上で、今後の検討課題かというように思います。状況と言いますのは、議員もご存じのとおり、毎年10人単位で職員が今減っていつている状況です。さらに、今後、公共施設の再編等によりまして職員配置のあり方を根本から抜本的に見直ししないといけません。そういった状況の中で、各行政区とのパイプと申しますか、連絡体制のあり方をどうすればいいのかということは、あわせて検討すべき事項だろうと思えますので、そうした意味で、状況を踏まえて検討させてもらいたと思います。以上です。

○議長（伊藤福章君） 17番深沢義一君、よろしいですか。

○17番（深沢義一君） はい、わかりました。以上で一般質問を終わります。

○議長（伊藤福章君） これで17番深沢義一君の一般質問を終わります。